



## ライフサイクルの管理

この章は、次の項で構成されています。

- 「VM の電源設定の管理」 (P.15-1)
- 「VM のサイズ変更」 (P.15-2)
- 「VM スナップショットの管理」 (P.15-3)
- 「仮想マシンのリース時間の設定」 (P.15-5)
- 「VM アクションの管理」 (P.15-6)



(注) 当該アプライアンスにログインしてからでないと、以下の手順はいずれも実行できません。

## VM の電源設定の管理

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング]の順に選択します。
- ステップ 2** クラウド名を選択します。
- ステップ 3** 仮想マシン (VM) アクションを起動するには、[VM] タブを選択して VM を右クリックします (タイマーが一巡するまで待ちます)。
- ステップ 4** いずれかのアクションを選択して、[VMタスク] ダイアログボックスを開きます。最後の 2 つのフィールドを入力します。

名前	説明
[VM名] 表示専用フィールド	アクションの対象となる VM の名前。
[電源オフ] 表示専用フィールド	VM の電源をオフにするタスク。
[電源オン] 表示専用フィールド	VM の電源をオンにするタスク。
[一時停止] 表示専用フィールド	VM を一時停止状態にするタスク。
[ゲストのシャットダウン] 表示専用フィールド	VM 上のゲスト OS をシャットダウンするタスク。
[スタンバイ] 表示専用フィールド	VM をスタンバイ状態にするタスク。

## VM のサイズ変更

名前	説明
[リセット] 表示専用フィールド	VM のハードリセットを実行するタスク。
[リブート] 表示専用フィールド	VM のソフトリブートを実行するタスク。
[コメント] フィールド	コメント。
[アクションのスケジューリング設定] オプション ボタン	VM の電源を今すぐオンにするか、または特定の日にオンにするタスク。

**ステップ 5** [続行] をクリックします。

## VM のサイズ変更

**ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。

**ステップ 2** クラウド名を選択します。

**ステップ 3** [VM] タブを選択します。

**ステップ 4** ツールバーで、[電源オフ] ボタンをクリックします。[VM タスク] ダイアログボックスが表示されません。

**ステップ 5** [今すぐ実行] を選択し、コメントを入力します。

**ステップ 6** [続行] をクリックします。

**ステップ 7** ツールバーで、[VM のサイズ変更] ボタンをクリックします。[VM のサイズ変更] ダイアログボックスが表示されます。次のフィールドを入力します。

名前	説明
[VM 名] 表示専用フィールド	VM の名前。
[現在の割り当て CPU] 表示専用フィールド	現在 VM 上に存在している CPU。
[現在の割り当てメモリ (GB)] 表示専用フィールド	現在 VM 上に存在しているメモリ。
[新しい CPU 数] ドロップダウン リスト	必要な CPU を選択します。
[新しいメモリ] ドロップダウン リスト	必要なメモリを選択します。

**ステップ 8** [サイズ変更] をクリックします。

## VM スナップショットの管理

ここでは、以下の 5 つのタスクについて説明します。

- [スナップショットの作成]: VM のすべてのリソースについて現状のスナップショットが作成できます。また、特定のスナップショットに復帰することも可能です。
- [スナップショットの復帰]: (OS が破損するなどして) VM がクラッシュまたは誤作動した場合に、VM の最新のスナップショットに復帰し、VM を稼働状態に戻すことができます。1 つの VM に対して複数のスナップショットが存在する場合は、特定のスナップショットに復帰することが可能です。
- [ゴールデンスナップショットのマーキング]: VM の特定のスナップショットをゴールデン スナップショットとしてマーク付けできます。この機能は、誤ってスナップショットが削除されることを防止します。
- [スナップショットの削除]: 必要に応じてスナップショットを削除できます。ゴールデン スナップショットを削除する場合は、先にマーキングを解除しておく必要があります。
- [すべてのスナップショットの削除]: 同じ VM のスナップショットをすべて削除できます。ただし、ゴールデン スナップショットが存在する場合は、すべてを一斉に削除することはできません。先にゴールデン スナップショットのマークを解除してから、すべてのスナップショットを削除する必要があります。

## VM スナップショットの作成

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想] > [コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2** クラウド名を選択します。
- ステップ 3** [VM] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
- ステップ 5** ドロップダウン リストから [スナップショットの作成] を選択します。[仮想マシンのスナップショットの作成] ダイアログボックスが表示されます。次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[スナップショット名] フィールド	スナップショットの名前。
[スナップショットの説明] フィールド	スナップショットの説明。
[スナップショットメモリ] チェックボックス	オンにすると、VM メモリが含まれます。
[ゲストのファイルシステムを休止] チェックボックス	オンにすると、休止モードでスナップショットが取得されます。 <b>(注)</b> ファイル システムを休止すると、物理コンピュータまたは仮想コンピュータのディスク上にあるデータが、バックアップに適した状態になります。このプロセスには、オペレーティング システムのメモリ内キャッシュから、ディスクまたはより上位レベルのその他のアプリケーション専用タスクにバッファをフラッシュするなどの操作が含まれる場合があります。この機能を使用するには、VMware の各種ツールが VM にインストールされている必要があります。

**ステップ 6** [続行] をクリックします。

---

## スナップショットへの復帰

---

**ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。

**ステップ 2** クラウド名を選択します。

**ステップ 3** [VM] タブを選択します。

**ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。

**ステップ 5** ドロップダウン リストから [スナップショットの復帰] を選択します。[スナップショットタスクの復帰] ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 6** 目的のスナップショット名の横にあるチェックボックスをオンにして、リストからスナップショットを選択します。

**ステップ 7** [続行] をクリックします。

---

## ゴールデン スナップショットのマーキング

---

**ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。

**ステップ 2** クラウド名を選択します。

**ステップ 3** [VM] タブを選択します。

**ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。

**ステップ 5** ドロップダウン リストから [ゴールデンスナップショットのマーキング] を選択します。[ゴールデン スナップショットタスクのマーキング] ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 6** 目的のスナップショット名の横にあるチェックボックスをオンにして、リストからスナップショットを選択します。

**ステップ 7** [ゴールデンスナップショットとしてマーキング] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 8** [続行] をクリックします。

---

## スナップショットの削除

---

**ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。

**ステップ 2** クラウド名を選択します。

**ステップ 3** [VM] タブを選択します。

**ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。

**ステップ 5** ドロップダウン リストから [スナップショットの削除] を選択します。[スナップショットタスクの削除] ダイアログボックスが表示されます。

- ステップ 6** 目的のスナップショット名の横にあるチェックボックスをオンにして、リストからスナップショットを選択します。
- ステップ 7** [子の削除] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 8** [続行] をクリックします。

## すべてのスナップショットの削除

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2** クラウド名を選択します。
- ステップ 3** [VM] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
- ステップ 5** ドロップダウン リストから [すべてのスナップショットの削除] を選択します。[VM スナップショットタスク] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 6** 必要に応じてコメントを入力します。
- ステップ 7** [続行] をクリックします。

## 仮想マシンのリース時間の設定

ユーザは、選択した仮想マシン (VM) のリースの有効期限を設定できます。リースの有効期限が切れると、VM がシャットダウンします (電源がオフになります)。リース終了時間はカレンダーで選択でき、制限はありません。

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2** クラウド名を選択します。
- ステップ 3** [VM] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択します。
- ステップ 5** ツールバーで、[リース時間の設定] ボタンをクリックします。
- ステップ 6** [リース時間の設定] ダイアログボックスで、[リース時間の設定] チェックボックスをオンにします。次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[VM名] 表示専用フィールド	VM の名前。
[リース日時] カレンダー、ドロップダウン リスト、オプション ボタン	VM のリース日時。日付を選択するカレンダー、時刻 (時と分) を選択するドロップダウン リスト、午前または午後を選択するオプション ボタンがあります。

ステップ 7 [送信] をクリックします。

## VM アクションの管理

その他の VM アクションのメニューについては、VM を右クリックすると短いメニューが表示されます。完全なメニューは、VM を強調表示してからツールバーの右側にある下矢印をクリックすると利用できます。

その他の VM アクションは以下のとおりです。

- VM の詳細の表示：個々の VM にアクセスして、サマリー レポート、vNIC、ディスク、スナップショットなどの詳細情報を確認できます。
- スタック ビュー：特定の VM に関する大量の情報（OS、ハイパーバイザ、インフラストラクチャの情報など）を確認できます。
- VM の削除：リストから VM を削除できます。削除できるのは、電源がオフになっている VM だけです。
- VM ディスクの作成：カスタム サイズの増設ディスクを VM に追加できます。
- VM ディスクの削除：ディスクを削除できます。
- vNIC の追加：1 つの VM に複数の vNIC を追加できます。VM 内の vNIC を追加または交換することも可能です。vNIC に対して実行できる操作は、VM に関連付けられている VDC にマッピングされたネットワーク ポリシーによって異なります。
- VM クライアントの起動：VM に対して、Web アクセス、リモート デスクトップ、VNC コンソールのいずれかの環境を設定できます。
- VM の割り当て：VM をグループまたは VDC に割り当てて、その VM のカテゴリを変更できます。プロビジョニング時刻、終了時刻、VM のラベルを設定することが可能です。
- VM クレデンシャルへのアクセス：Web アクセスまたはリモート デスクトップ アクセス用として設定された場合は、VM のログイン クレデンシャルにアクセスできます。ただし、VM プロビジョニングの起点となるカタログで、管理者から必要な権限が付与された場合にのみ限られます。
- VM のインベントリ収集リクエスト：VM を選択して、その VM のオンデマンド方式によるインベントリ収集をリクエストすることができます。
- VNC のテスト：トラブルシューティングの目的で、VNC の接続をテストできます。
- 複製：既存の VM を複製またはコピーして、同一または同様の品質の新しい VM を作成できます。
- VM を VDC に移動：VM を VDC に移動して、VDC システム ポリシーのルールが VM 内で採用されるようにします。
- VM 再同期：VM の時間を UCS Director と定期的に再同期させる間隔を分単位で設定できます。

## VM の詳細の表示

- ステップ 1 メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング]の順に選択します。
- ステップ 2 クラウド名を選択します。
- ステップ 3 [VM] タブを選択します。
- ステップ 4 リストから VM を選択します。

**ステップ 5** ツールバーで、[詳細の表示] ボタンをクリックします。

## スタック ビューの使用方法

**ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。

**ステップ 2** クラウド名を選択します。

**ステップ 3** [VM] タブを選択します。

**ステップ 4** ツールバーで、[スタックビュー] ボタンをクリックします。

## VM の削除

**ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。

**ステップ 2** クラウド名を選択します。

**ステップ 3** [VM] タブを選択します。

**ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。

**ステップ 5** ドロップダウン リストから、[VM の削除] を選択します。[VM タスク] ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 6** 必要に応じてコメントを入力し、アクションを今すぐ実行するか、あとで実行するようにスケジュールを設定します。

(注) [あとで実行] を選択した場合は時刻を指定する必要があります。

**ステップ 7** [続行] をクリックします。

## VM ディスクの作成

**ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。

**ステップ 2** クラウド名を選択します。

**ステップ 3** [VM] タブを選択します。

**ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。

**ステップ 5** ドロップダウン リストから [VM ディスクの作成] を選択します。[VM ディスクの作成] ダイアログボックスが表示されます。次のフィールドを入力します。

名前	説明
[VM 名] 表示専用フィールド	VM の名前。
[新しいディスクサイズ (GB)] フィールド	VM のディスク サイズ (GB 単位)。

名前	説明
[ディスクタイプの選択] ドロップダウン リスト	ディスク ラベルを選択します。
[データストアの選択] ドロップダウン リスト	データストアを選択します。 <b>(注)</b> 選択できるデータストアは、VM (VM の VDC) に関連付けられたストレージ ポリシーによって異なります。
[Thin プロビジョニング] チェックボックス	オンにすると、シンプロビジョニングされたディスクが VM に追加されます。 <b>(注)</b> シンプロビジョニングを使用すると、物理ストレージ容量の動的割り当てが有効になり、VM ストレージの使用率が改善されます。

**ステップ 6** [作成] をクリックします。

## VM ディスクの削除

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング]の順に選択します。
- ステップ 2** クラウド名を選択します。
- ステップ 3** [VM] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
- ステップ 5** ドロップダウン リストから、[VM ディスクの削除] を選択します。[VM ディスクの削除] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 6** ドロップダウン リストからディスク名を選択します。
- ステップ 7** [削除] をクリックします。

## vNIC の追加

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング]の順に選択します。
- ステップ 2** クラウド名を選択します。
- ステップ 3** [VM] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
- ステップ 5** ドロップダウン リストから [vNIC の追加] を選択します。[VM vNIC の追加] ウィンドウが表示されません。
- ステップ 6** [操作] ドロップダウン リストから [追加] を選択します。  
**(注)** ネットワーク ポリシーで設定されている増設 vNIC の制限を超過する場合、この操作は許可されません。



**ステップ 7** ツールバーの [追加] (+) ボタンをクリックし、[VM ネットワークへのエントリの追加] ダイアログボックスを表示します。次のフィールドを入力します。

名前	説明
[NIC エイリアス] ドロップダウン リスト	リストから NIC エイリアスを選択します。
[ポートグループタイプ] 表示専用ドロップダウン リスト	リストからポート グループを選択します。
[ポートグループ名] ドロップダウン リスト	リストからポート グループ名を選択します。
[アダプタのタイプ] 表示専用ドロップダウン リスト	アダプタのタイプを選択します。このドロップダウン リストから選択できるのは、ネットワーク ポリシーで [テンプレートからのアダプタのタイプのコピー] が選択されていない NIC エイリアスに限られます。
[DHCP] 表示専用チェックボックス	オンにすると、DHCP を使用して IP が割り当てられます。
[固定 IP プール] フィールド	固定 IP アドレス プール。
[ネットワークマスク] フィールド	ネットワーク マスク。
[ゲートウェイ IP アドレス] フィールド	ゲートウェイ IP アドレス。

(注) [NIC エイリアス]、[ポートグループ名]、[アダプタのタイプ]、[DHCP]、[静的 IP プール] の各選択肢は、VM (VM の VDC) に関連付けられたネットワーク ポリシーの設定によって異なります。複数の NIC ネットワーク ポリシーの詳細については、「[ポリシーの管理](#)」(P.8-1) を参照してください。

(注) このアクションを実行するために、VM の電源がオフにされます。アクションが完了すると VM の電源がオンになります。

**ステップ 8** [送信] をクリックします。

## vNIC の置換

**ステップ 1** メニュー バーで、[仮想] > [コンピューティング] の順に選択します。

**ステップ 2** クラウド名を選択します。

**ステップ 3** [VM] タブを選択します。

**ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。

**ステップ 5** ドロップダウン リストから [vNIC の追加] を選択します。[VM vNIC の追加] ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 6** [操作] ドロップダウン リストから [置換] を選択します。

**ステップ 7** vNIC を選択し、[vNIC の追加] ダイアログボックスを表示します。次のフィールドを入力します。

名前	説明
[NIC エイリアス] ドロップダウン リスト	NIC エイリアスを選択します。ここに表示されるのは、ネットワーク ポリシーで設定された vNIC に限られます。
[ポートグループ名] ドロップダウン リスト	ポート グループを選択します。
[アダプタのタイプ] ドロップダウン リスト	アダプタのタイプを選択します。このドロップダウン リストから選択できるのは、ネットワーク ポリシーで [テンプレートからのアダプタのタイプのコピー] が選択されていない NIC エイリアスを選択した場合に限られます。
[DHCP] チェックボックス	DHCP を使用して IP を割り当てる場合はオンにします。
[固定 IP プール] フィールド	固定 IP アドレス プール。
[ネットワークマスク] フィールド	ネットワーク マスク。
[ゲートウェイ IP アドレス] フィールド	ゲートウェイ IP アドレス。

**ステップ 8** [送信] をクリックします。

- (注) [置換] 操作では、既存の vNIC すべてが VM から削除され、削除された vNIC が追加された vNIC に置き換わります。ネットワーク ポリシーで設定されている増設 vNIC の制限を超過する場合、この操作は許可されません。
- (注) [NIC エイリアス]、[ポートグループ名]、[アダプタのタイプ]、[DHCP]、[静的 IP プール] の各選択肢は、VM (VM の vDC) に関連付けられたネットワーク ポリシーの設定によって異なります。複数の NIC ネットワーク ポリシーの詳細については、「[ポリシーの管理](#)」(P.8-1) を参照してください。
- (注) このアクションを実行するために、VM の電源がオフにされます。アクションが完了すると VM の電源がオンにされます。

## vNIC の削除

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想] > [コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2** クラウド名を選択します。
- ステップ 3** [VM] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
- ステップ 5** ドロップダウン リストから [vNIC の削除] を選択します。[VM vNIC の削除] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 6** [選択] ボタンをクリックします。[項目の選択] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 7** [すべてオン] または [すべてオフ] を選択するか、削除する vNIC の横にあるチェックボックスをオンにします。

**ステップ 8** [選択] をクリックします。

---

## VM クライアントの起動

---

**ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。

**ステップ 2** クラウド名を選択します。

**ステップ 3** [VM] タブを選択します。

**ステップ 4** VM を選択します。

**ステップ 5** ツールバーで、[VMクライアントの起動] ボタンをクリックします。[クライアントの起動] ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 6** ドロップダウンリストから**アクセス スキーム**を選択します。[リモートデスクトップ]、[Web アクセス]、[VNC コンソール] のいずれかを選択できます。

(注) VNC コンソールとは、VM にアクセスできる、Ajax ベースのコンソールのことです。コンソール ウィンドウは、任意のスタンドアロン型 Web ブラウザを使用して起動できます。専用のブラウザ プラグインは不要であり、すべての VM コントロール機能を備えています。

**ステップ 7** いずれかのオプションを選択して [続行] をクリックします。

---

## VM での VNC コンソールの有効化

---

**ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。

**ステップ 2** クラウド名を選択します。

**ステップ 3** [VM] タブを選択します。

**ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。

**ステップ 5** ドロップダウン リストから [VNC の設定] を選択します。

**ステップ 6** [送信] をクリックします。

**ステップ 7** [OK] をクリックします。

(注) VNC コンソールから VM へのアクセスは、リクエストが送信されると Cisco UCS Director によって自動的に設定されます。

---

## VM の VNC コンソール ウィンドウへのアクセス

---

**ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング] の順に選択します。

**ステップ 2** クラウド名を選択します。

**ステップ 3** [VM] タブを選択します。

- ステップ 4** VM を選択します。
- ステップ 5** ツールバーで、[VMクライアントの起動] ボタンをクリックします。[クライアントの起動] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 6** ドロップダウンリストから、アクセススキーマとして [VNC コンソール] を選択します。
- ステップ 7** [続行] をクリックします。
- (注) VM の VNC コンソールへアクセスするには、ESX/ESXi サーバの VNC ポート (5900 ~ 5964) がハイパーバイザ上で開いている必要があります。
- (注) Cisco UCS Director には、VM の VNC コンソールを自動設定する機能があります。この設定を行うには、必要なポートをハイパーバイザ上で開いておく必要があります。
- (注) ESX 4.X および ESXi 5.0 バージョンを使用するハイパーバイザは、VNC コンソール アクセスを設定できます。

## VM の割り当て

- ステップ 1** メニューバーで、[仮想] > [コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2** クラウド名を選択します。
- ステップ 3** [VM] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択します。
- ステップ 5** ツールバーで、[VMの割り当て] ボタンをクリックします。[VMの割り当て] ダイアログボックスが表示されます。次のフィールドを入力します。

名前	説明
[VM名] 表示専用フィールド	VM の名前。
[ユーザグループ] ドロップダウンリスト	ユーザグループを選択します。
[VDC] ドロップダウンリスト	VDC を選択します。
[カテゴリ] ドロップダウンリスト	VM のカテゴリを選択します。
[VMユーザラベル] フィールド	VM ラベル (必要な場合)。
[プロビジョニング時間の設定] チェックボックス	オンにすると、VM プロビジョニングを実行する特定の時刻が設定されます。
[プロビジョニング日時] カレンダー、ドロップダウンリスト、オプションボタン	VM プロビジョニングが実行される日時。 <sup>1</sup> 日付を選択するカレンダー、時刻 (時と分) を選択するドロップダウンリスト、午前または午後を選択するオプションボタンがあります。
[終了時間の設定] チェックボックス	オンにすると、VM を終了する特定の時刻が設定されます。

名前	説明
[終了日時] カレンダー、ドロップダウンリスト、オプション ボタン	VM を終了する日時。 <sup>2</sup> 日付を選択するカレンダー、時刻（時と分）を選択するドロップダウン リスト、午前または午後を選択するオプション ボタンがあります。
[コメント] フィールド	コメント（必要な場合）。

1. このオプションは、[プロビジョニング時間の設定] がオンの場合に表示されます。
2. このオプションは、[終了時間の設定] がオンの場合に表示されます。

**ステップ 6** [割り当て] をクリックします。

## VM クレデンシヤル

VM の Web アクセスまたはリモート アクセス用のログイン クレデンシヤルを表示できるのは、VM プロビジョニングの起点となる**カタログ**で、管理者から必要な権限が付与された場合に限られます

### VM クレデンシヤルの確認

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想] > [コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2** クラウド名を選択します。
- ステップ 3** [VM] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択します。
- ステップ 5** ツールバーで、[VM クレデンシヤルにアクセス] ボタンをクリックします。

## VM のインベントリ収集リクエストの使用方法

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想] > [コンピューティング] の順に選択します。
- ステップ 2** クラウド名を選択します。
- ステップ 3** [VM] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印ボタンをクリックします。
- ステップ 5** ドロップダウン リストから [インベントリ収集] を選択します。
- ステップ 6** [送信] をクリックします。

## VNC 接続のテスト

VNC 接続のテストは、トラブルシューティングの目的で使用できます。VNC 接続のテストに合格すると、ホスト ノードの IP アドレスと VNC ポート番号が表示されます。たとえば、「VNC 接続は 172.29.110.75:5921 で保持されています」と表示されます。

ただし、接続に失敗した場合は、失敗のメッセージが表示されます。たとえば、「VM がまだ VNC に設定されていません!」と表示されます。

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想] > [コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2** クラウド名を選択します。
  - ステップ 3** [VM] タブを選択します。
  - ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印をクリックして、[VNC のテスト] を選択します。
  - ステップ 5** [VNC 接続のテスト] ダイアログボックスで、[送信] をクリックします。
  - ステップ 6** この結果を使用して、VNC 接続をトラブルシューティングします。



**(注)** 接続に失敗した場合は、VM の IP アドレスに VNC が割り当てられません。詳細については、「[VM での VNC コンソールの有効化](#)」(P.15-11) を参照してください。

---

## VM の複製

VM の複製は、同様の品質の新しい VM を作成するために既存の VM をコピーすることと同じです。複製では、新しい VM に必要な調整を行う際に複製元の VM から必要なパラメータを保持するため、時間を短縮できます。複製された VM に指定される名前は、システム ポリシーで定義されます。

- 
- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想] > [コンピューティング] の順に選択します。
  - ステップ 2** クラウド名を選択します。
  - ステップ 3** [VM] タブを選択します。
  - ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印をクリックして、[複製] を選択します。
  - ステップ 5** [VM の複製] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
<b>[グループの選択] ペイン</b>	
[グループの選択] ドロップダウンリスト	複製する定義済みグループを選択します。デフォルトでは、[デフォルトグループ] が選択されています。

- ステップ 6** [次へ] をクリックします。
- ステップ 7** [導入設定] ペインで、次のフィールドを入力します。

名前	説明
<b>[導入設定] ペイン</b>	
[VDC の選択] ドロップダウンリスト	VM に対して使用するポリシーが含まれる VDC を選択します。

名前	説明
[コメント] フィールド	任意で VDC の説明を入力できます。
[プロビジョニング] ドロップダウンリスト	今すぐ VDC をプロビジョニングする場合は [今すぐ] を選択します。後で VDC をプロビジョニングする場合は [あとで] を選択します。

**ステップ 8** [次へ] をクリックします。

**ステップ 9** [カスタマイズオプション] ペインで、次のフィールドを入力します。

名前	説明
<b>[カスタマイズオプション] ペイン</b>	
[カテゴリ] ドロップダウンリスト	使用する VM カテゴリを選択します。
[クレデンシャルオプション] ドロップダウンリスト	ユーザの VM アクセス クレデンシャル (共有済み) の取得を許可するか、許可しないかを選択します。管理者が UCS Director 外部のその他のユーザに個人的にクレデンシャルを送信する場合は、[共有しないでください。] オプションが選択されます。
[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングします] チェックボックス	オンにすると、あらかじめ設定されている単一データストアのすべての VM ディスクがプロビジョニングされます。
[ユーザ ID] フィールド	ユーザ ID。 <sup>1</sup>
[パスワード] フィールド	ユーザのパスワード <sup>1</sup> 。
[自動ゲストカスタマイズ] チェックボックス	[有効化] チェックボックスがオンになっています。
[プロビジョニング後のカスタムアクション] チェックボックス	ワークフローを追加する場合は、[有効化] をクリックします。選択可能なワークフローのリストを示す [ワークフロー] ドロップダウンリストが表示されます。プロビジョニングの開始時に、選択したワークフローが開始されます。
[VM アプリケーションの請求間隔] ドロップダウンリスト	[毎時間] または [毎月] を選択します。
[アクティブな VM アプリケーションコスト] フィールド	テンプレートに含まれるアプリケーションのコスト。
[非アクティブな VM アプリケーションコスト] フィールド	非アクティブ状態の VM のこのカタログに対するコスト (時間単位または月単位)。

1. このオプションは、[クレデンシャルオプション] でいずれかの共有オプションを選択した場合に表示されます。

**ステップ 10** [次へ] をクリックします。

**ステップ 11** [カスタム仕様] ペインで、次のフィールドを入力します。

名前	説明
<b>[カスタム仕様] ペイン</b>	
[CPU コア] ドロップダウンリスト	プロビジョニングされる VM の CPU コアを選択します。
[メモリ] ドロップダウンリスト	プロビジョニングされる VM のメモリの容量を選択します。

**ステップ 12** [次へ] をクリックします。

**ステップ 13** [データストアの選択] ペインで、次のフィールドを入力します。

名前	説明
<b>[データストアの選択] ペイン</b>	
[VM ディスク] 鉛筆アイコン	目的のデータストアを目的のディスクに割り当てる場合は、[VM ディスク] 鉛筆アイコンをクリックします (ディスクが使用可能な場合)。

**ステップ 14** [VM ディスクエントリの編集] ダイアログボックスで、次のフィールドを選択します。

名前	説明
[ディスク名]	データストアの割り当て先 VM ディスクの名前。
[ディスクの種類]	VM ディスクの種類を選択します。たとえば、システムなどです。
[選択済みのデータストア]	この VM ディスクに使用するデータストアを選択します。選択肢として表示されるデータストアは、VDC に追加されたデータストレージポリシーからのものです。

**ステップ 15** [送信] をクリックします。

**ステップ 16** [次へ] をクリックします。

**ステップ 17** [VM ネットワークの選択] パネルで、次のフィールドを選択します。



(注) ネットワーク ポリシーで [エンドユーザにオプションの NIC の選択を許可] チェックボックスがオフになっている場合、[VM ネットワークの選択] パネルは空になります。

名前	説明
<b>[VM ネットワークの選択] ペイン</b>	
[VM ネットワーク] 鉛筆アイコン	VM ネットワークを編集する場合は、[VM ネットワーク] 鉛筆アイコンをクリックします。

**ステップ 18** [選択] ダイアログボックスで、VM と関連付けるクラウドを選択します。

**ステップ 19** [送信] をクリックします。

**ステップ 20** [サマリー] パネルで複製された VM 情報を確認します。

**ステップ 21** 完了したら [送信] をクリックします。複製された VM の新しい名前は、VDC ポリシーに従って指定されます。



## VM の VDC への移動

VM を VDC に移動して、VDC システム ポリシーのルールが VM 内で採用されるようにします。既存の VM は、VDC に移動されたものに置き換えられます。



(注) 古い VM は削除されます。システム ポリシーに従って、新しい VM の名前が指定されます。

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング]の順に選択します。
- ステップ 2** クラウド名を選択します。
- ステップ 3** [VM] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印をクリックして、[VM を VDC に移動] を選択します。
- ステップ 5** [VM を VDC に移動] ダイアログボックスでは、VDC の複製時と同じ方法で、移動する VM を変更できます。詳細については、「[VM の複製](#)」(P.15-14) を参照してください。

## VM の再同期

VM の時間が UCS Director と定期的に再同期されるように、VM を設定できます。

- ステップ 1** メニュー バーで、[仮想]>[コンピューティング]の順に選択します。
- ステップ 2** クラウド名を選択します。
- ステップ 3** [VM] タブを選択します。
- ステップ 4** VM を選択し、ツールバーの右側にある下矢印をクリックして、[再同期 VM] を選択します。
- ステップ 5** [再同期 VM] ダイアログボックスの [最大待機時間] ドロップダウン リストで、0 ~ 30 の分単位の時間を選択します。
- ステップ 6** [送信] をクリックします。

